

日本海水学会第 67 年会見学会および第 16 回若手の集いを終えて

千葉工業大学 和田 善成*

日本海水学会第 67 年会見学会と第 16 回若手の集いを年会前日の 2016 年 6 月 8 日 (水) に実施いたしました。見学会は、北海道苫小牧市の臨海工業地帯の一角に位置する北海道曹達株式会社の苫小牧事業所を見学させていただきました。参加者は、大学・企業合わせて 22 名となりました。あいにく当日の天気はぐずつき模様でしたが、観光バスを貸し切り新千歳空港から年会会場の登別グランドホテルの中間に位置する苫小牧市に向かいました。苫小牧事業所では、高田所長および職員の方々から北海道曹達社の沿革および設備概要について解説していただいた後、事業所内を電解槽および原料塩の加工行程を中心に見学させていただきました。北海道曹達社の操業当初は、登別温泉を奥座敷にもつ登別市に幌別事業所が 1 社 1 工場として建設され、北海道内の苛性ソーダ・塩素およびその関連製品の供給を一手に引き受けておられたそうです。その後大型船が着岸可能な西部苫小牧港に隣接する苫小牧事業所が建設され、1995 年から苛性ソーダ・塩素の生産は苫小牧事業所に集約されているそうです。2015 年には、苫小牧事業所に新規なイオン交換膜法電解槽・整流器が完成し、過去に稼働していた数分の 1 の電解槽数 (2 基) の稼働のみでこれまでの生産量が達成できているそうである。原料となる塩は、主にオーストラリアとメキシコから輸入しており、一般用塩としての販売も行っている。その他、苛性ソーダ・塩素の二次・三次製品として、道路の氷結防止剤としての塩化カルシウムや消毒用の次亜塩素酸ソーダ、排水処理等に用いられるポリ塩化アルミニウムなどの製造設備も備えており、時間が許せばぜひ詳しく見学したかった。見学会の最後には、参加者からの質問時間を設けてくださり、原料塩の輸入先、膜の洗浄方法や電力の供給についてなど海水学会会員ならではの内容で、活発な質

疑応答がなされました。90 分ほどで見学会は終了し、年会会場のある登別温泉へと向かいました。

その後、登別グランドホテル近隣の料理店「いせくら」にて若手の集いを開催いたしました。1 回目の乾杯のご発声は若手会会長の松本真和先生 (日本大学生産工学部) に行っていただきました。その後、事前申込者に加え比嘉充先生 (山口大学)、松本道明先生 (同志社大学) を始めとした多数の方々当日駆けつけてくださり、東郷育郎氏 (サンアクティス) のご発声で 2 回目の乾杯となりました。最終的には総勢 35 名の参加をいただき、「海水」をキーワードに集まっていた若手研究・技術者のみならず現役学生から生涯若手の研究・技術者まで、所属・世代の垣根を超えた交流がありました。若手会の企画には私自身が学生時代から参加させていただいておりましたが、この垣根を超えた交流こそが海水学会と若手会の良さであると改めて実感しております。最後には第 68 年会の実行委員長である松本道明先生にご挨拶いただき、盛況のうちに会を終えることができました。

これらの企画・運営にあたり、多くの方々のご協力をいただきました。見学会の開催にあたり、北海道曹達社の皆様には多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。また、見学会、若手の集いとも多数のご参加をいただきましたこと、幹事として参加者の皆様にご心より感謝する次第です。また、集いの開催にあたり、幹事である私が年会会場の事前準備の関係で集合が遅れてしまった際、昨期から新任となった若手会幹事の先生方に率先してフォローいただきましたこと、大変感謝申し上げます。いずれも遠隔地での開催ということもあり、多大なるご尽力をいただきました室蘭工業大学の山中真也先生 (年会実行委員長・若手会幹事) をはじめ、若手会、

* 千葉工業大学附属研究所 (〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 2-17-1)

Chiba Institute of Technology, 2-17-1 Tsudanuma, Narashino, Chiba 275-0016, Japan

年会実行委員会, および学生スタッフの皆様にも多大なるご協力をいただきました。重ねて感謝申し上げます。末筆となりますが, これらの企画が, 私自身を

め海水に関わる皆様の研究のご発展に少しでも繋がっていただければ幸いです。



写真1 見学会 (沿革および設備概要の解説)



写真2 見学会 (工場内の見学風景)



写真3 見学会 (集合写真)



写真4 若手の集い